



輝いている人を紹介します

## まちのキラリ

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会

聖火ランナー

齋藤 正昭さん (保原)

間もなく開催を迎える、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会。いよいよ聖火が福島県にやってきました。

齋藤正昭さんは、伊達市ゆかりのランナー（県公募枠）として、3月27日に福島市内を走ります。本番を目前に控えた齋藤さんに、お話を伺いました。

聖火ランナーに応募した

きっかけを教えてください

自分を支えてくれる家族や仲間、職場の皆さんに感謝の気持ちを伝えたくったからです。ランナーに選ばれたと知ったときは「まさか自分が」と驚きましたが、素直にうれしかったです。

私は5年前、54歳の時に緑内障を思い、中途視覚障がい者になりました。その時は生きる目標を失ったかのような気持ちになりましたが、復職するために懸命にリハビリに取り組みしました。

復職するときは不安もありましたが、職場は温かく迎え入れてくれました。職場の皆さんや視覚障がいのある仲間、家族によく恩返しができるという思いです。

齋藤さんが挑戦しているブラインドマラソンについて教えてください

ブラインドマラソンは、視覚障がい者が行うマラソン競技です。障がいの程度によ

て伴走者と走ります。

今まで、ものの里マラソンをはじめ、いくつかの大会に出場しました。2年前には歩行訓練士を伴走者に、函館マラソンでハーフマラソンに挑戦しました。

私がこの競技を始めたのは、健常者の人とながりをもちたかったからです。「健常者だから」「障がい者だから」ということではなく、共に生きる社会をつくるためには、この競技にチャレンジすることが重要だと思ったのです。

聖火リレー本番の意気込みを教えてください

私が走る距離は200m、時間にして約2分というわずかなものです。しかし、それはきっと夢のような時間になるはずですよ。

長男が伴走してくれることも楽しみです。自分を支えてくれる皆さんに対する思いを背負いながら、自分自身も楽しみたいですね。